

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和元年12月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790500033		
法人名	社会福祉法人 高陽会		
事業所名	グループホームのぞみ野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府和泉市のぞみ野3丁目13-10		
自己評価作成日	令和1年11月11日	評価結果市町村受理日	令和2年1月21日

【事業所基本情報】

<http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和1年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を感じていただけるよう、その方に合った食事形態で、旬の食材を提供し「作る」「食べる」楽しみを持っていただいています。毎月、日舞・ハーモニカ・大正琴等のボランティアの方々が訪問されます。また、子育てサロンの場を提供し、地域交流を積極的に行っています。職員の内部・外部研修を年8回実施し、スキルの向上に努め、地域を支える取り組みとして自治会自主防災会に加入しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の「清掃活動や防災訓練」に参加している。また、「オレンジカフェや子育てサロン」を事業所主催で開催し、地域住民と関わりを持って地域に貢献ができるように取り組んでいる。
利用者と家族のかかわりを大切にしており、利用者の馴染みのあるお寺や公園で家族と落ち合い一緒に過ごせる時間を作ったり、「ボランティア行事や夏祭り」に家族に参加を呼びかけ、利用者も家族とかかわることで安心して事業所で暮らすことができている。
職員は利用者の残存能力を活かすための支援を心掛け、日中はトイレで排泄することや調理補助・おやつ作り等、利用者と一緒にできることを一人ひとりに合わせた支援を行っている。
「季節感が持てる食の楽しみ」を目指し、毎日の買い出しで食材を選んだり、嗜好に合わせた外食やバイキングを提供している。おせち料理や敬老会等のお弁当も利用者は職員と一緒に手作りする等、食を楽しめるように取り組み、笑顔が絶えないように支援している。
慣れ親しんだ事業所で看取りを希望する利用者や家族が多く、近年は看取りについての指針をもとに看取りケアを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・基本方針は朝礼時に唱和している。また、事業所理念は玄関ホールや事務所に掲示し共有している。	入職時に法人理念についての説明を行っている。職員は携帯している名札の裏に法人理念を記載し、いつでも確認することができる。 事業所理念は、毎週の座談会や毎月の業務ミーティングで話し合う機会を設け、日頃のケアに反映されているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や民生委員の方から地域ネットワークの企画や老人会のイベントの情報を伺い参加している。また、地域のすこやか文化祭・和泉きらめき作品展に出展している。社協開催の認知症への声掛け訓練のアドバイザーでの参加。	事業所は自治会に加入しており、地域のイベントや事業所行事等、回覧板や自治会長を通じて情報を共有し互いに参加している。 利用者は地域の清掃活動や防災訓練に職員と一緒に参加している。毎月のオレンジカフェや、本年度から開催した子育てサロン等、地域住民と積極的にかかわりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方の施設訪問の受け入れ、勉強会の講師派遣等ができる体制であり、オレンジカフェの場として活動している。毎月子育てサロンとの交流を持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催している運営推進会議では市職員・地域包括・自治会役員・家族代表の方が出席し、事業報告、意見交換、情報収集を行いホーム運営に生かし、年2回の消防訓練にも参加いただいている。地域の行事には積極的に参加している。議事録は会議終了後いつでも閲覧できるようファイルし、会議当日の申し送り時に伝えている。	運営推進会議では、事業所の状況や行事の報告を行い、困難事例等は市職員や地域包括職員からアドバイスを受けている。また、家族等からの意見はサービスに反映できるように努めている。 事業所が地域でできることを話し合っている中で子育てサロンの提案があり事業所主催で開催することとなった。地域の防災対策等についても話し合いを重ねている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>電話連絡等で済ませることなく面談し報告、連絡するよう心掛けています。又、運営推進会議の場においても積極的に意見交換を行っています。</p>	<p>市が主催する「在宅医療介護連携コーディネーター相談事業」へ参加し、困難事例について話し合う機会を持っている。その他、「元気なうちに知っ得(しっとく)講座」を事業所で開催し市職員と交流を図っている。運営推進会議で市職員へ苦情相談や空き情報等の提供を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び身体拘束しないケアの実践を行っている。</p>	<p>内部研修は年2回開催し、職員はレポートを作成することで研修内容を振り返り理解を深めている。職員が希望すれば外部研修に参加することもできる。各フロアの出入口は基本的に解錠している。施錠の必要性があった場合は業務ミーティングや座談会等、その都度話し合い、できる限り出入口を施錠しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行うとともに日々のミーティングや会話の中でどういう状況が虐待や拘束につながるのかを話し合う機会を持つようにしている。地域包括支援センター主催の出前講座を職員対象に開催。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護、成年後見制度の外部研修に参加し参加者により報告会を開いている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設見学、相談、契約には管理者が必ず同席し、家族の相談、疑問について答えている。また、契約時の重要事項について納得いただき契約書に署名、捺印を頂いている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にも利用者の代表者が参加できるように配慮している。また、年1回アンケート調査を実施して運営に反映させるように努めている。入居者さんご本人にも参加いただいています。</p>	<p>家族に利用者の普段の様子を知ってもらえるように、土曜日や日曜日にボランティアに訪問してもらう行事を変更した。その事で多くの家族が参加でき、日頃の暮らしを理解することで意見や要望が出やすくなっている。聴き取った意見や要望等は業務ミーティングで話し合い、利用者の支援に反映できるように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティング時の話し合いの場で個人の意見を出してもらっている。また、様々な企画の立案は職員に任せ運営者、管理者は安全面の確認を中心に行っている。個人面談は年1回、週1回座談会、月1回業務ミーティングを実施。</p>	<p>毎年、人事評価時期に個別面談を実施している。その他、毎週の座談会から職員の意見や要望を聴き取る機会を持ち、毎月の業務ミーティングで話し合い業務改善に取り組んでいる。管理者は緊急性が高い事や即時に改善が必要な業務については、早期の対応を心がけており、その影響により職員からは意見が多く得られるようになっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に1回の自己評価で職員の意識、向上心の把握をすることで就業環境の整備を図っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時の基礎研修、内部研修（年6回）、外部研修は研修内容や経験に応じて積極的に参加している。また、勉強会を実施し研鑽に努め、経験に応じた研修会や業務ミーティング実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内の施設部会に参加したり、グループホームの情報交換会には必ず職員が参加できるように配慮している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の聞き取りの中で本人のニーズを汲み取り、アセスメントを経てケアプランに反映するよう努めている。また、入居暫くは関わりの時間を多く持つようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の聞き取りの中で家族のニーズを汲み取り、アセスメントを経てケアプランに反映するよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスを家族と共に考え、必要とあらば他のサービスを紹介する。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人との日常の会話から今までの生活の様子、嗜好を聞きながら、あくまで本人中心の支援をしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>状況に応じ利用者には家族の話を、家族には訪問時や便りを通じて様子を伝えるよう努め利用者と家族の良い関係が継続するように支援している。外食やお誕生日会にはご家族へお声掛けし、水入らずで過ごしていただけるよう支援を行っている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話の利用、郵便物の受け渡し等の、今までの関係が途切れないように支援を行っている。レクリエーションのドライブに行く際は、その方の馴染みのある場所にお連れしている。	利用者や家族の意見を聴きながら、馴染みのあったお寺や公園などで家族と落ち合い、家族と一緒に過ごせるように支援している。 また、新たな馴染みを作るため、毎日の散歩や買い出しの際に地域住民と挨拶を交したり、地域の美容室の利用や夏祭りへ参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活に支障が出ないように、時には職員が間に入ったりして関係を築きながら、馴染みの人が一人でも多くできる様対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時又は契約終了後も家族と連絡を取れるようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回時のアセスメントやミーティング時で課題や要望を把握し、その人らしい生活が継続していけるよう支援している。	入所前に各居宅介護事業所や病院等から情報収集を行い、利用者や家族との面談を繰り返し、思いや意向を確認している。事業者は朝にティータイムを設け、職員と利用者が会話できる時間を大切にしている。 日頃の利用者の発言や態度行動等はカルテに記載し、職員間で情報を共有している。業務ミーティングで話し合い、利用者の残存能力を活かすことができるよう取り組んでいる。	
----	---	---	--	--	--

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	訪問調査時に本人や家族の希望、意向を伺いケアプランに反映させ、職員の共有の認識としている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテを詳細に記入し、職員が情報を共有することにより、一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。昼のミーティング時にカンファレンスを行い、状態の把握と情報の共有を図り、心身の状態に合わせた支援を行っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前のアセスメントでは本人、家族、サービス関係者より情報収集し、安心して生活していただける様、スタッフと共に話し合いケアプランに反映するようにしている。また、入居後は1ヵ月に2回個別にカンファレンスを実施している。	介護計画は心身の状況に変化が無ければ半年ごとに見直し、その都度モニタリングしている。心身等の状況に変化があれば、介護計画を見直している。 担当者会議には管理者・計画作成担当者・家族、必要に応じて主治医や看護師が参加している。担当者会議で出た意見や職員の意見等を介護計画に反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテは個人別に記録しカンファレンスでその情報をもとにケアプランに反映させている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の利点を生かし、本人・ご家族の希望に添えるような柔軟な対応をしている。		

29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設利用時の配慮等お願いしている。介護相談員（民生委員）の方にも訪問して頂いている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・ご家族の希望を伺い、その意向に添った支援をしている。また、入居後もかかりつけ医と連携しながら、健康面に配慮している。	月2回定期的に往診があるが、今までのかかりつけ医を受診することもできる。通院は基本的に家族が行っているが、やむおえない事情がある際は、事業所が通院支援を行っている。受診時は受診記録を作成し、家族・職員にも受診内容を伝え共有している。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	かかりつけ医の看護職との関わりを大切に、ホームでの状況を伝え助言を頂いたり、馴染みの関係づくりを大切にしている。週1回の体調チェックを実施している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的な訪問を行い担当医や看護師、理学療法士等の病院関係者と情報交換をしている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問医や看護師と連携し、重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族と話し合い終末期ケアに向けた体制を整えている。	入居時に、重度化した場合と看取りについての説明を行い書面にて同意を得ている。以前、2件看取った際も必ず往診の医師・病院・本人・家族と常に連携を取り、ミーティングを行っている。また、看取りを行う際は必ず家族間で話し合ってもらい主治医とカンファレンスを開き、意向を確認している。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や緊急対応マニュアルによって徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、防災マニュアルを基に職員間で周知している。消防訓練を運営推進会議と同日に行い、メンバーの方に参加頂き災害時の協力をお願いしている。また、入居者数の3日分の備蓄を準備している	消防職員の立会で利用者も含め昼夜想定避難訓練を年2回行っている。地域の連携も取れていて、自治会などで自主防災の役割を決めている。運営推進委員会で当施設利用者と判断しやすいように黄色のタオルを身に付けてもらうよう取り決めている。年1回、内部研修も行っている。災害が増えている為、備蓄・備品も備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待や個人情報の扱いについて日頃のミーティングで話したり、内部研修を実施している。	一人ひとりの人格・人権を尊重し、日頃から抑制のない言葉かけや失礼のない態度を心掛けることを職員に指導している。人権擁護、個人情報についても年1回、研修を行っている。最近ではスピーチロックの講習を受けた後に全職員レポートを提出している。個人記録等は鍵の掛かる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり選択して頂けるよう押し付けの援助を避けるようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模の利点を生かし利用者のペースに合わせて、個性を大切にしている。		

39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の有する能力に応じて、おしゃれを楽しんでもらっている。理美容については、家族とコミュニケーションを図り援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については買出し、下ごしらえ、盛り付け、後片付けと様々な場面で入居者の能力に応じ支援している。企画で外食やバイキングといった「食」の提供方法を多様に考えている。	食に力を入れ、毎日利用者と近隣のスーパーマーケットに買い物へ出かけている。土曜日や日曜日は冷蔵庫にある食材を利用し利用者と献立を考え無駄の無いよう工夫している。2ヶ月に1回外食とバイキング等で食に楽しみを持ってもらうよう支援している。庭で収穫した野菜等を利用し季節を感じる献立を考えている。誕生日会は一人ひとり開催し、その利用者の家族も参加することがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に食事摂取量と水分管理のチェック表を用いて、日々の観察をしている。また月初には体重測定も行っている。食事形態もその方に合わせた調理方法で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	援助の必要な方には、適切な声かけと介助を行っています。また、歯科治療後は状態に応じて口腔衛生指導を受けられている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ミーティングで話し合い、またカンファレンス等を実施し残存機能を活かした支援を行っています。排せつケアの勉強会も実施しています。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。日中はトイレを利用した排泄ができるように支援している。夜間は睡眠の妨げとならないように尿取りパッドの交換や覚醒具合によりトイレ誘導をしている。	

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で個別に観察しています。朝食時にバナナヨーグルト、夕食時にはオリーブオイル入りのヨーグルトを提供し、予防に努めています。	
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日3人程度で週2回～3回入浴支援を実施。拒否された場合は、柔軟に対応している。	週2・3回程度は入浴ができるように支援している。入浴の拒否があった場合は時間や職員を変えたり、声掛けも工夫し入浴ができるように支援している。最近では重度化した利用者も増えてきているため、シャワーキャリーやバスボードも購入し、活用している。浴室・脱衣所の温度差が少ないように室温を管理している。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備を行ったり、入居者の方の生活のリズムを整えるよう支援している。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を個人カルテに表示し作用、副作用の確認をしている。薬は分かりやすく管理し、服薬チェック表に記入し管理している。また症状の変化の確認も行っている。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴や一日の過ごし方の状況を生かし定期的な企画（外食、バイキング、散歩、ドライブ）や季節ごとの企画を取り入れている。月1回、ボランティアを招いています。	

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々の食材の買い物、散歩、嗜好品の買い物等にて外出を図っている。また、外食や季節行事やドライブ等の企画も合わせて行っている。</p> <p>外出困難な方には送迎したり、介護タクシー等も活用されている。外食行事ではご家族にもお声掛けしている。</p>	<p>重度化が進み外出が困難になってきているが、車イスや福祉車両を使用し、外食や近隣の公園等に出かけている。今までの馴染みの場所等には家族の協力等も得て外出できるように支援している。当施設内で行うオレンジカフェにも参加している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理できる方には所持して頂き、外食や買い物時に使用してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたいと希望の場合はかけに行き手紙の場合は返信できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>照明は日中・夜間等の状況に応じて調整している。また季節感を感じられるように生け花や掲示物をリビングや玄関ホールに用意している。</p>	<p>各フロアに、食堂や家族と利用できるリビングがあり、利用者がくつろげるように工夫している。加湿器・アロマ等も使いリラックスできる環境作りをしている。利用者が作った作品やその月の行事に応じた飾り付け、展示物等を利用し、季節を感じる空間作りを行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者の方には居室、ダイニング、リビング、玄関ホールで気の合う方、家族との面談、又は一人で過ごしていただいている。また晴れた日には、中庭のベランダにテーブルを用意しているのでそこでも過ごされている。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に今まで使い慣れた私物や馴染みのある家具類等持ってきて頂けるよう依頼している。自宅の環境に近づけるように配慮している。</p>	<p>ベッド・カーテン・寝具等は備え付けであるが、今まで利用者の使い慣れた家具等を持ち込むことができる。利用者の心身の状態に合わせて家具等の配置を考えている。安全に移動できる生活動線を確認し、転倒防止に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には入居者の方の目印になるものを表札代わりに飾っている。またトイレには表示と照明の工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない